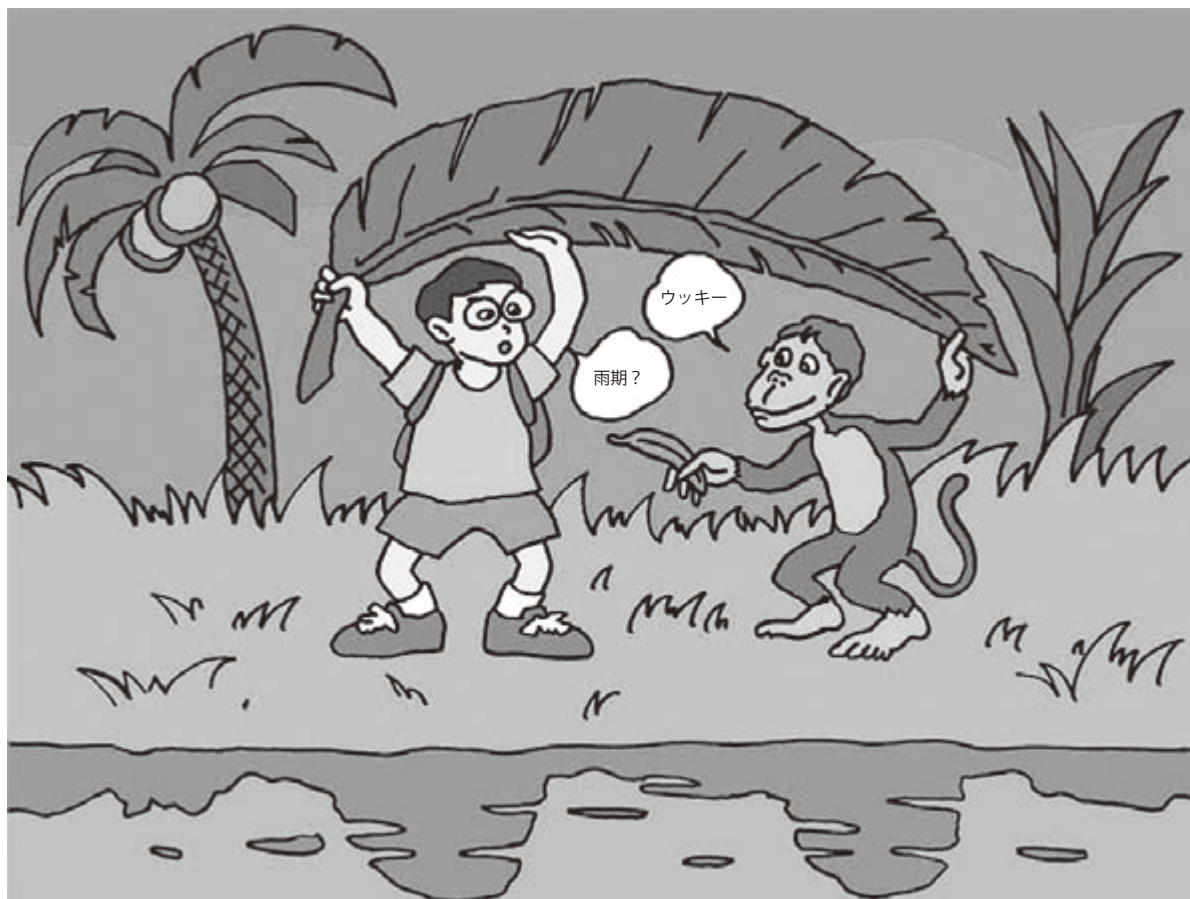


# 新しい広報誌「GSJ地質ニュース」創刊に寄せて

脇田 浩二<sup>1)</sup>



第1図 インドネシアの調査風景の一コマ（河村幸男氏作画）  
原典：地質ニュース567号, 第27図.

これまでの地質ニュースは、私にとっても重要な発表の場でした。地質ニュースに様々な紹介記事を書くことで、自分の専門とは異なる多くの方々に、自分の研究成果を知って頂くことができ、思わぬ方から、「面白かったよ」と声をかけられる喜びを得てきました。

私は、多くの原稿をオチから考えます。そしてそのオチをイメージに置き換えて、アーティスト河村幸男氏（産総研広報部）に漫画を描いて貰います。彼の漫画から膨らむインスピレーションを元に、さらなるイメージを膨らませ、文章を書き始めます。したがって、その多くの原稿は河村

氏との共同作業でした。冒頭の漫画（第1図）は、インドネシアの地質調査の一シーンです。雨期と猿の一言「ウッキー」の駄洒落です。

2011年3月11日の東日本大震災では、産総研の「地質の調査」の成果が十分に一般の人々に伝わっていなかったのではないかと反省もあり、社会への分かりやすい伝達の必要性を痛感させられました。一方、2004年のインドネシアのスマトラ沖大地震の後、インドネシアの研究者は地質ニュースなどの広報誌を熱心に研究して、住民に地震や津波、火山災害などへの備えやそのバックグラウン

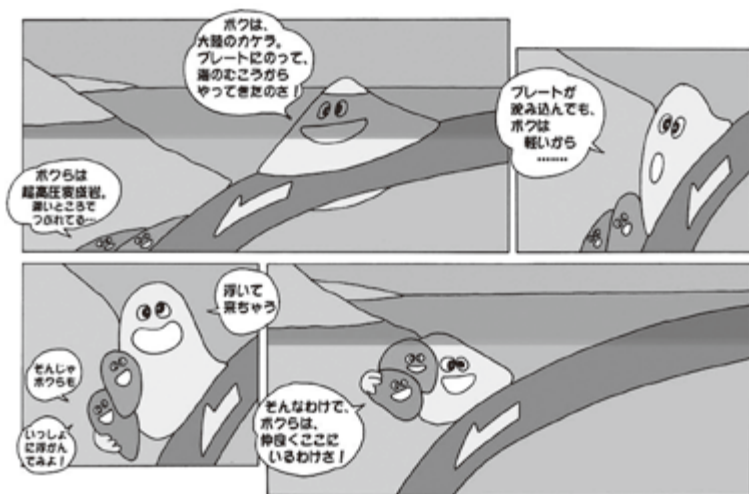
1) 産総研 地質調査情報センター

キーワード：地質ニュース、インドネシア、漫画、GEOMAGZ、普及

ドとなる地質科学の知識を住民に分かりやすく伝える努力をしてきました。地質ニュースはそのように日本ばかりではなく、多くの国において、地質科学の知識普及への役割を担っています。

もう一枚の漫画(第2図)は、同じ河村氏の作品でインドネシアのテクトニクスを四コマ漫画にしたものです。これは、インドネシアの地質ニュースにあたる

GEOMAGZ(2011 創刊)の最新号(Vol.1,no.2)にインドネシア語に翻訳されて掲載されています(第3図)。漫画は、日本が世界に誇る文化ですので、地質科学の分野においても、漫画を使ってよりよい普及活動が出来たら素晴らしいと思います。新しい「GSJ地質ニュース」においても、地質科学の知識がより広い層に浸透してゆき、社会の安心・安全や発展に少しでも貢献していくことを願っています。



第2図 超高压変成岩の上昇をもたらす微小大陸片の沈み込み(河村幸男氏作画)。原典：地質ニュース 579号, 第1図。



第3図 インドネシアで今年発行された新しい広報誌 GEOMAGZ Vol.1,no.2. 右上の図が日本の地質ニュース579号からの引用。

WAKITA Koji(2012): Celebration note for new journal "GSJ Chishitsu News".

(受付：2011年11月28日)